

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	確かな学力の定着
目標（評価規準）	子どもが、子どもの思いを、子どもの言葉で、子どもに向かって話している。	
重点に係る現状 設定理由	<p>○小規模校化が進み、多様な考えを出し合い新たな解を作る場面を意図的、計画的に設定する必要がある。これを「強み」と捉え、全教職員が一人ひとりの児童の学習状況を多面的、多角的に把握しながら学力の三要素の定着、伸長を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「算ノート」、「言葉のトレーニング」による計算力の向上や語彙の増加が確認できている。取り組みを継続し、基礎学力を定着させることができる授業づくりを推進する。 ・授業研究を中心に学校研究を活性化させ、「主体的、対話的で、深い学び」を追求する。 ・学習指導要領の教科の目標に沿って、体育、音楽、生活において2学年合同の授業を追求していく。 ・地域素材を教材化した問題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力を高める。 	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>設問1 創造的な教育活動 合同授業や交換授業など意欲的に取り組んだ。</p> <p>設問2 基礎学力の定着 基礎基本の充実については「算ノート」「言葉のトレーニング」では行き詰まり感を持っている。</p> <p>設問3 認め合い高めあい 学校研究のテーマ「子どもが子どもの言葉で語り合う」に照らすと教科学習面では不十分であったが、150周年児童集会では、発表までの間、児童同士が積極的にかかわりあいながら問題解決に向かう場面を設定できた。</p> <p>設問4 家庭学習の充実 計画的に実施できていない。児童、保護者への周知、啓発面で不足感がある。</p>
各アンケート等の結果	<p>設問2 基礎学力の定着 「算ノート」「言葉のトレーニング」などの取り組みの効果を実感できていない。</p> <p>設問4 家庭学習の充実 家庭学習と宿題を同一のものとしてみている。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・合同授業や交換授業は来年度以降も継続していく。多面的な児童理解、系統的な学習、中学校の教科担任制へのスムーズな移行などの効果が規定できる。ただし、合同授業や交換授業の意義やねらい、実施教科や実施学年は職員の共通理解が必要である。 ・基礎学力の向上については、「算ノート」「言葉のトレーニング」の効果を実感できるような工夫、また、学習持久力の向上も含めた手立てを検討する必要がある。 ・学校研究テーマ「子どもが子どもの言葉で語り合う」を次年度も継続していく。多様化、グローバル化が急速に進む現代においては必要不可欠な子どもの姿ととらえている。 ・家庭学習についてはこれからも児童、および、保護者への説明をしていく。また、職員間の共通理解も深め、系統的、組織的に実施していく。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、少人数による教育活動の利点であるきめ細かい指導を生かしながら、デメリットを補う形の合同授業や異学年交流などの教育活動の継続を望む。 ・基礎基本の定着、および、家庭学習については改善方策に基づいて取り組んでほしい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・合同授業や交換授業は効果や方法、学習指導要領の理念について共通理解を図り、今後も継続していく。 ・「算ノート」や「言葉のトレーニング」、「夏みかんタイム」などの基礎学力、学習持久力向上のための手立ては、今後も方法を工夫しながら継続していく。 ・「主体的、対話的で深い学び」の追求のため「子どもが子どもの言葉で語り合う」をテーマとした学校研究を活性化させる。 ・家庭学習については意義や方法を児童に指導し、保護者への説明を続けていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	支持的風土の確立
目標（評価規準）	よりよい人間関係を築きながら、すべての児童が自分らしく、生き生きと活動している。	
重点に係る現状 設定理由	・小規模校化が進んでいる状況から、子どもたち同士が多様な人間関係を構築する力の育成が急務であると考えている。授業や行事はもとより、学校生活全般を通してお互いの個性を認め合いながら、良好な人間関係を育める学級、学校づくりを進める。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	設問5 基本的な生活習慣・規範意識 一斉指導で落ち着かない児童への対応に苦慮している場面が多少みられる。 他の設問項目の結果はおおむね良好であるといえる。
各アンケート等の結果	設問5 基本的な生活習慣・規範意識 一斉指導で落ち着かない児童への対応についての評価が表れている。 設問6 支持的風土の構築 児童の話を十分に聞きとれていない面がある。 他の設問項目の結果はおおむね良好であるといえる。
自己評価結果 （見解と改善方策）	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導で離席が目立つ児童への対応は、専科教員や言葉の教室担当、S S Sの配置など複数の教員が教室にいる状況を作る、児童指導委員会を中心に組織的に行っているが、不十分な面があるといえる。しかし、人的な不足が現状である。来年度も教員の複数配置、組織的な対応を継続していく。 ・児童間のトラブル等については個人で対応せず、校長と教頭を含めた児童指導委員会で対応する場合がある。細かい点も含めて、当該児童や関係児童に十分に話を聞き、保護者と共通理解を図りながら人間関係の構築に努めていく。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の複数配置が児童の成長やよりよい人間関係の構築に効果を上げているようなので、今後も継続してほしい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童指導については教職員間の共通理解を図りながら今後も組織的な対応を続けていく。 ・人的配置の範囲内で教員の複数配置を追求したい。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	地域とともにある学校づくりの推進
目標（評価規準）	保護者、地域と協働しながら教育活動を進めている。	
重点に係る現状 設定理由	・今年度は開校150周年にあたる。PTA、記念事業準備実行委員会と連携しながら、歴史と伝統のある三崎小学校、地域に愛されている三崎小学校であることを常に意識し、その期待に応えられるよう「三崎らしさ」を大切にしつつ、家庭・地域と協働した学校づくりを進める。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	設問9 各種通信 ・様々な場面で学校の考え方や取り組みを発信したが、学校だよりの発行回数が少なかった。 その他の設問項目の結果はおおむね良好である。
各アンケート等の結果	設問9 各種通信 写真を多用して学級の様子を伝えてきた。保護者からは「子どもたちの様子がよく伝わってくる」という高評価が得られている。 その他の設問項目の結果はおおむね良好である。 ・150周年児童集会に地域の素材を生かした。児童の成長した姿に教職員の充実感がうかがえる。 ・150周年記念事業の企画、運営にPTA運営委員会を含む保護者、地域の協力が十分に得られた。
自己評価結果 （見解と改善方策）	・150周年記念事業において、PTA運営委員を中心とした保護者の協力を得られた。今後も継続して教育活動に関わる学校の考え方、教育活動の様子を発信し、地域に信頼される学校、地域に根差した学校づくりを目指していく。 ・150周年児童発表で成果を上げた地域の人材、素材を教材化する活動は継続し、実践を蓄積していくことで系統的に地域学習ができる学習計画を作っていく。
学校関係者評価結果	・150周年の児童集会に子どもたちの成長が表れていた。今後も地域の素材、人材を生かした教育活動を進め、地域に根差した学校作りを進めてほしい。
最終改善方策	・地域素材の教材化や地域人材の効果的な活用、地域単元の蓄積等、三崎を愛する気持ちを育てる教育活動を進めていく。 ・150周年事業への保護者、地域の協力を値する教育活動を進めなければならない。重点1、重点2にあるような改善方策を遂行しつつ、学校の情報を保護者や地域へ積極的に発信し、地域に開かれた学校、地域に根差した学校づくりを進めていく。